

50. 健康体操、送迎、団欒居場所、ゲーム、 高卒資格用通信講座支援

グループ名 一般社団法人ちいきの広場光・シニアグループ
代表者 山下幹雄

① 活動の目的

孤立高齢者・空家・孤立障害者の増加と若者居住者激減が京都駅近辺で大きな問題となっている。これらの問題を解決するために、丁寧な会話が可能で経験豊かなシニアボランティアが参加しやすく負担の小さい、少人数グループの高齢者サロンと障がい者青年学級とを、空家空間を活用した点から面のネットワーク形成を目指して、創っていくこと。

② 活動概要

I. 高齢者サロン（年24回）と II. 障がい者青年学級（年24回）を下記のように行った。

I. 高齢者サロン（無料：毎月第二・第四木曜日準備・車送迎・後片付けを含め約三時間：下記写真1，2参照）

これまでに近隣の90代、80代、70代後半の方がのべ15名参加。うち2名が男性。毎回平均5～6名が参加。

昨年9月～今年1月前半まではボランティア1～2名が参加。地域包括センターからも随時1名参加。今年1月後半からは若手ボランティアの代わりに近隣の60～70代女性4名のボランティアグループが参加（8月第四木曜日のみ夏休み）。

今季は90代女性2名（共に足が悪く一人住まい・後に1名遠慮され不参加）、80代女性4名（うち一人は足が悪く一人住まい後に遠慮され不参加・うち一人は軽い認知症で酸素吸入器が必要な一人住まいでかつ夜中等にテレビリモコントラブルのため頻りにサポート・うち一人は足が弱く娘と二人住まい・うち一人は共に難聴の老夫婦のみの住まい）、さらに70代後半脳手術経験男性1名が奥さんと参加（老夫婦と娘との住い）。参加者のうち1名は車による送迎。

活動内容は、NHK ビデオ健康体操、椅子に座ってボール運動ゲーム・脳トレゲーム・ビンゴゲーム・百人一首・トランプ・かるた・歌・カラオケ・オセロ。加えて、日々の出来事・思い出・困りごと・誕生日等が話題の茶話会。そこでは手作りのおやつ・わらび餅・お茶・コーヒー等を楽しむ。

普段会話の機会が少ないので、多様な人達と会話し合うことが重要。定常的に参加できるボランティアと出会うことが課題

II. 障がい者青年学級（無料・毎月原則第一・第三土曜日午後準備後片付け含め三時間半：下記写真1，2参照）

現在4名の知的障がい者（男性19から21歳：総合特別支援学校卒業生）が参加。ボランティアの留学生2名・日本人1名が途中でやめたが、今年7月から元小学校支援総合学級の先生がボランティアとして参加。

参加者の希望に沿って、NHK 高校講座「物理基礎」「科学と人間社会」「数学I」及び“原子の構造”についてQ&A学習をパソコン・プロジェクター・ビデオ・図による説明を利用し行った。理解度チェック資料・ノートとり・一週間前メール送付による復習用簡単宿題（日常で使う分数・小数・冪数・時間距離速さの単位・高校講座復習）を活用。

Q&Aを頻繁に行い一歩進んで0，5歩バックで参加者に合わせたリズムを大切にしている（下記写真参照）。

途中から一名が危険物取扱者三種の資格を取りたいとの強い希望があり、このためのテキスト問題集を購入利用し、理解・暗記・Q&A・スマホ音声録音による学習を行った。2年後を目標。

趣味・日常生活・仕事（4名共契約社員）・友人・家族・旅行についての団欒茶話会も実施。

家族の考え方・異性友人付き合い・職場対応・余暇利用・話相手・意思表示などが課題。定常的に参加できるボランティアと出会うことも課題。

「つながる塾」がキーワード。

活動で気がついたこと：ボランティアの特徴は先駆的・柔軟・近隣理解を育む・すそのを増やす・高齢者が活躍できるの点。短所は無責任・時間制限・専門力欠如。

③ 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支出	高齢者サロン茶話会誕生会景品代軽飲食代	23,460円
	参加者用タクシー代等の交通費	19,580円
	プリンター関連消耗品	21,621円
	参加者用保険代	8,160円
	通信費	10,120円
	利用場所整備用消耗品	14,378円
	参加者用本代	5,940円
	合計	103,259円

高齢者サロン写真1



高齢者サロン写真2



青年学級写真 1



青年学級写真 2

